

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(前頁の問題文の続き)

三人はトロツコを押しながら緩い傾斜を登って行った。良平は車に手をかけていても、心は外の事を考えていた。

その坂を向うへ下り切ると、又同じような茶店があった。土工たちがその中へはいった後あと、良平はトロツコに腰をかけたが、帰る事ばかり気にしていた。茶店の前には花のさいた梅に、西日の光が消えかかっている。「もう日が暮れる」——彼はそう考えると、ぼんやり腰かけてもいられなかった。トロツコの車輪を蹴って見たり、一人では動かないのを承知しながらうんうんそれを押して見たり、——そんな事に気もちを紛らせていた。

ところが土工たちは出て来ると、車の上の枕木に手をかけながら、無造作に彼にこう云った。

「われはもう帰んな。おれたちは今日は向う泊りだから」

「あんまり帰りが遅くなるとわれの家でも心配するぞら」

良平は一瞬間呆氣にとられた。もうかれこれ暗くなる事、去年の暮母と岩村まで来たが、今日の途はその三四倍ある事、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならない事、——そう云う事が一時にわかったのである。①良平は殆ど泣きそうになつた。が、泣いても仕方がないと思つた。泣いている場合ではないとも思つた。彼は若い二人の土工に、取つて附けたような御時宜をすると、②どんどん線路伝いに走り出した。

物語文 場面・心情

問1 傍線①「良平は殆ど泣きそうになった」とありますが、それはなぜですか。もつとも適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア これまで親切にしてくれた土工が、急に冷たい態度をとつたから。

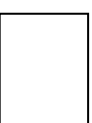
イ 土工たちが、大したお礼もしないまま、自分を追い払おうとしていると知ったから。

ウ もう日が暮れるのに、土工はまだ茶店から帰る気がないということがわかったから。

エ 土工たちの言葉によつて、これまで来た長い道のりを、一人で歩いて帰らなければならないと悟ったから。



問2 傍線②「どんどん線路伝いに走り出した」とあるが、どこへ向かつて走り出したのか、本文中から漢字一文字で書き抜きなさい。



場面

劇や映画の1カットにたものを、言語のみで言い表したものです。

「時」「場所」「人物」「物事」「出来事」などの要素でできています。

心情

人の心そのもののようす、ありさまのことをいいます。

「われ……おまえ